

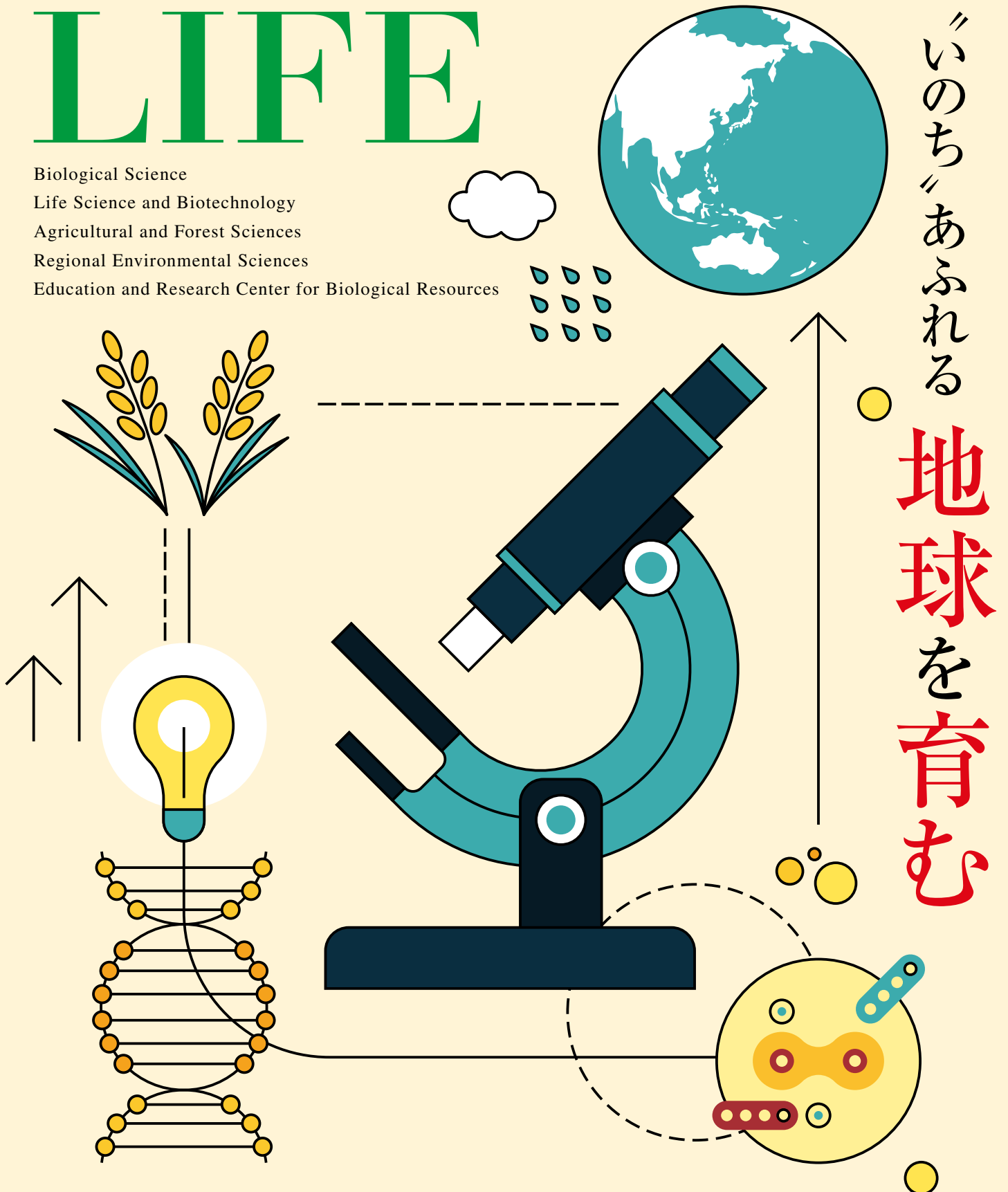
島根大学 生物資源科学部

SHIMANE UNIVERSITY
Faculty of Life and Environmental Science

学
部
内
2017

LIFE

Biological Science
Life Science and Biotechnology
Agricultural and Forest Sciences
Regional Environmental Sciences
Education and Research Center for Biological Resources



L

自然と人との共存は
いつから
難しくなったのだろう

I

日々の暮らしの中
に
地球と僕らの
未来へのヒントが
ある

E

想いは
科学の視点で
カタチにする

E

LIFEを探求して 地域や世界で活躍しよう

生物資源科学部は、生命現象の基本原則から、バイオテクノロジーや有用生物資源(作物・果樹・花卉・畜産・昆虫・森林・微生物)の育成・開発・利用とそれらを育む環境の保全・修復、さらには農業・農村の社会経済問題など、非常に幅広い分野を教育研究の対象としています。すなわち、Life(生物・生命・生産・生活)やEnvironmental Science(環境科学)に関する基礎学力を養うことやフィールド教育(海洋:隠岐, 森林:三瓶, 農場:松江・出雲)を体験することで、皆さんが住んでいる地域社会や企業・官公庁で活躍するために必要とされる柔軟な思考力・実践

力・課題解決能力・プレゼンテーション/コミュニケーション能力・国際的視野を持った人材の養成を目指しています。学部卒業生は、これまでに3,600名以上にもなり、民間企業、官公庁、教育機関などから高く評価されています。

また、大学院修士課程修了生として、これまで800名以上を送り出し、多くは国内外の企業・大学などで研究者として活躍しています。

皆さん! 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の愛した水の都で松江Lifeを楽しんでみませんか。



生物資源科学部長 澤 嘉弘
Yoshibiro Sawa

沿革

- 1947年 島根県立農林専門学校設置
- 1949年 新制島根大学設置
- 1965年 島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置
- 1971年 大学院農学研究科を設置
- 1995年 農学部と理学部を改組し、生物資源科学部を設置
- 2000年 大学院生物資源科学研究科を設置
- 2004年 国立大学法人島根大学となる
- 2008年 生物資源科学研究科5専攻体制から3専攻体制に改組
- 2012年 生物資源科学部を5学科体制から4学科体制に改組

LIFEを科学する ———— 4学科のキーワード

生物科学科

生命現象の謎の解明
 少人数のセミナー
 豊富な実験メニュー
 論理的な思考能力を養う
 問題解決能力を高める
 自由な発想による真理の探求

生命工学科

生命のメカニズムの探求
 基礎研究から実用・応用研究へ
 実験カリキュラムの充実
 各研究室へ体験訪問
 化学・生物学から専門研究まで
 技術者・研究者をめざす

農林生産学科

4つのコース
 地域資源を活かしたフィールドワーク
 農地における生命価値の探求
 農業問題の解決
 森を守り、森を活用
 農業・農村の社会経済問題の解決

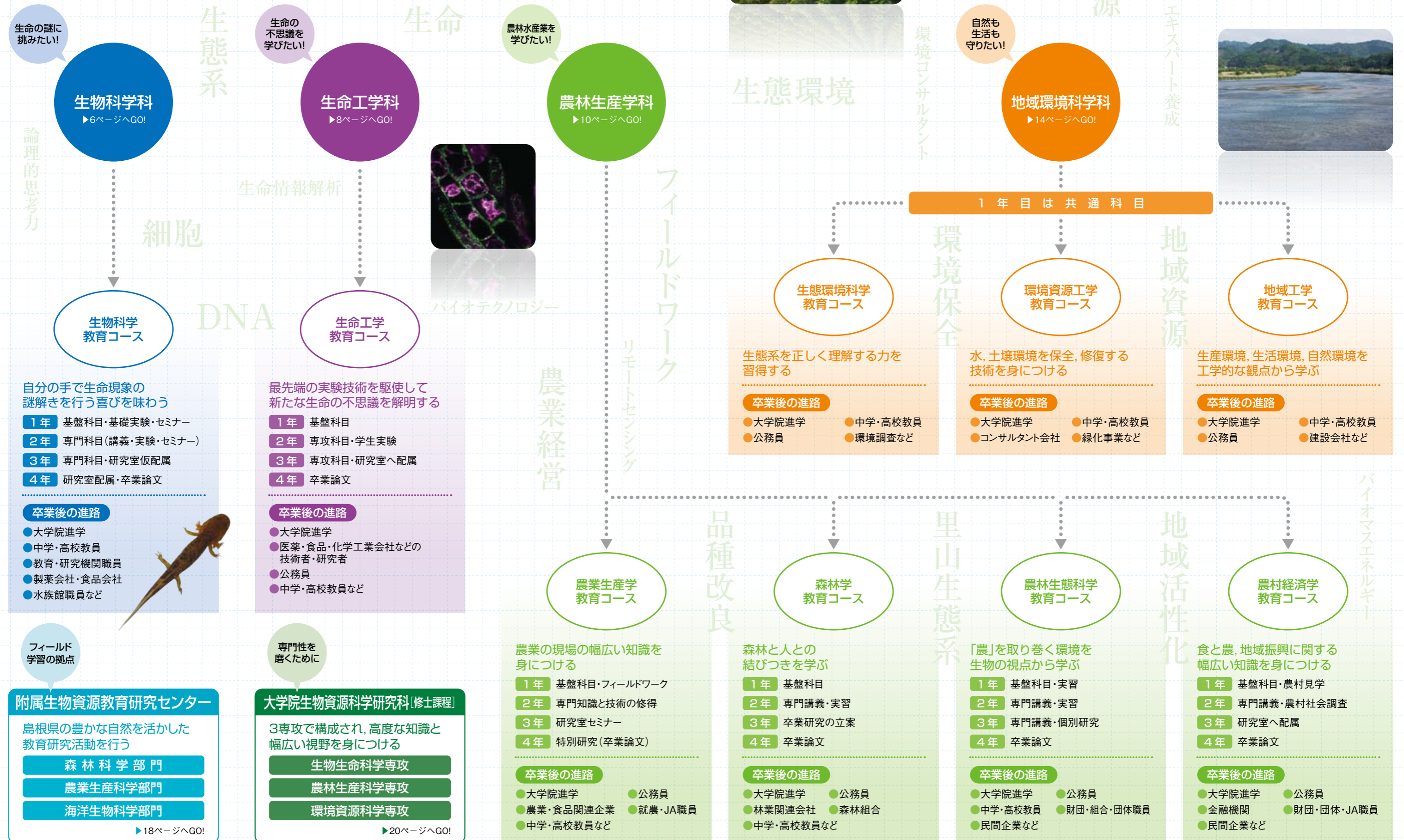
地域環境科学科

3つのコース
 人と自然の関わり
 地域における暮らし方
 生態系の保全
 人と生物との共存
 農村や中山間地での暮らし

LIFE を学ぶ

科学的知識・能力を養い、生物系科学を総合的に学ぶ

生物資源科学部 コースマップ



自然の真理を求めて

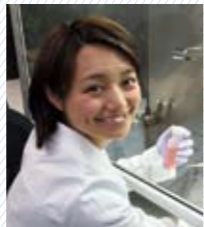


生命の謎に挑む

生物科学科

生物科学科では、原核生物・原生動物から多細胞生物に至る多様な生物が示す様々な生命現象についての理解と根本原理の解明をめざしています。DNA・蛋白質などのミクロの世界から細胞、組織・器官、そして個体・集団といったマクロの世界までを研究対象とし、構造的・機能的解析、遺伝子発現解析、遺伝子の組換え技術などの手法や概念をもとに基盤的学問分野についての研究・教育を行っています。分子生物学、細胞生物学、発生生物学、遺伝・進化生物学などの生物科学の基盤となる学問を自由に研究できる、これこそ本学科の大きな魅力です。生命現象の不思議さを追求する過程を通し、論理的思考力、問題解決能力を身につけ、社会で活躍するための資質能力を向上させることができます。

活躍する卒業生



松浦やよいさん

2012年(平成24年)
3月卒業
(現在)
深江化成株式会社

「生物だけやりたい人が来てください。」この言葉に衝撃を受けて生物科学科への入学を決意しました。

各分野の知識に長けた先生方がいるので専門性が高まり、また実習とリンクさせていくことで高校以上に生物を楽しむことができました。私はさらに、微生物に関する知識や技術を深めたくなり大学院に進学したことで、より専門的な知識や思考力が得られました。

研究をする中で実験器具に興味を持ち、「器具」の視点から研究を支えたいと思い、チップやピペッターなどのプラスチック製品をつくる会社に入社して充実した毎日を送っています。

生物に興味があるなら、ぜひ生物科学科で学んでみてはどうでしょうか!

教育の特色

生物科学科では、1学年30人の学生に対して教員13人で生物科学全体をカバーする陣容をとっており、希望に沿った専門的領域を卒業論文の中で学ぶことが可能です。また、「生物科学セミナーI」では、教員一人につき学生5~6人が配属され、教員の助言のもと各学生が生物科学に関するテーマを設定し、文献調査や実験の結果などを元にしてレポートをまとめ、プレゼンテーションや討論を行います。セミナー科目では科学的思考法や討論のスキルを身につけられるよう、特にきめ細かく丁寧な教育を行っています。



新入生歓迎バスツアー

カリキュラム

1年次には「基盤科目」を中心に履修し、生物科学の幅広い範囲の知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して個体・細胞・遺伝子・タンパク質などの実態に触れながら実験技術を習得します。これらの学びを通して科学的思考と方法論も身につけていきます。3年次の後期には研究室配属が決定し、4年次の「卒業論文」を作成するための実験と生命現象の謎解きが始まります。



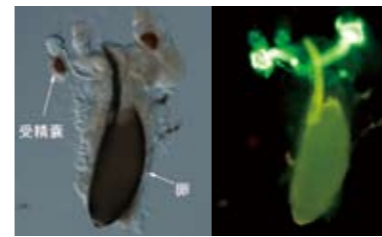
生物科学実験

研究

生物科学の広い領域をカバーするため、様々な専門領域の教員によって学科が構成されています。そのため、研究領域も様々です。研究テーマの例を挙げると、「極限微生物の生理機能」、「モデル植物の分子生物学」、「両生類の再生・変態・細胞死」、「原生動物の運動の仕組み」、「毛周期」、「シダ植物の生殖様式と進化多様性」、「動物の内臓の比較形態学」、「ショウジョウバエの種分化」、「昆虫の視物質とレチノイド代謝」、「イネの輸送体に関する研究」、「ミドリゾウリムシとクロレラの共生機構」、「生物多様性の進化・維持機構の理論的解明」、「環境DNAを用いた生物モニタリング手法の開発」などです。研究対象として、大腸菌、酵母、ミドリゾウリムシ、シロイヌナズナ、イネ、ショウジョウバエ、ツメガエル、マウスなどのモデル生物系を用いるとともに、オボッサムやココロギなど新たなモデル系の開発も目指しています。これらの研究で得られた成果は、論文や学会などで世界に向けて発信されています。

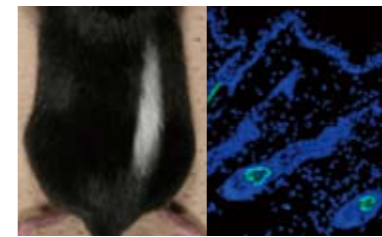


生物科学セミナー

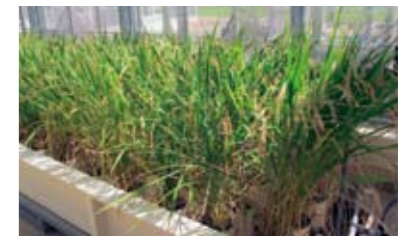


ショウジョウバエ雌の内部生殖器官

左：微分干渉顕微鏡像
右：照射型蛍光顕微鏡像



マウス背部へのキセノン光照射により誘導された白毛化(右側部)



放射性セシウムを吸収しないイネの開発(福島県農業総合センターにて)

取得可能な資格

- 教育職員免許状 (高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 学芸員

卒業後の進路

- 大学院進学(修士課程・博士課程)
- 中学・高校教員 ●国家・地方公務員
- 教育・研究機関職員 ●製薬・食品会社
- 環境関連産業
- 動物および植物などを扱う関連施設 (水族館, 動物病院, 多機能型牧場など)

生物科学科の詳しい情報は Webでチェック!

島根大学 生物科学科



ライフサイエンス & バイオテクノロジー

生命を科学する 生命工学科

生命工学の基礎、「生命の設計図」＝「遺伝子」＝「DNA」が解明されて50年以上が経ちます。生命工学科では、ライフサイエンスとバイオテクノロジーに関する幅広い知識と高度な専門技術を学びます。ライフサイエンスは、生命そのものを科学する学問であり、バイオテクノロジーは生物の持ちうる力を最大限に引き出し共有していく技術です。生物学と化学の知識を基盤に、遺伝子操作、生命情報解析、バイオイメージング、有機合成、分子構造解析などの最先端技術を駆使して、動物、植物、微生物が持つ生命現象の基本的なメカニズムを分子・細胞・生体のレベルで解明を行うとともに、生物の持つ有用機能を食品・化学工業、医薬・農業製造業などの生物、化学産業に役立てるための教育と研究を行っています。

活躍する卒業生



柳井 良太さん
2014年(平成26年)3月卒業
(現在)
林兼産業株式会社
品質保証部

私は食品メーカーに勤務しており、品質保証の業務に携わっています。現在は、商品に関する表示が適正であるか、また、製造された商品の安全性が保たれているかなどの試験を行っています。私は学生時代に微生物を扱った研究を行っており、その経験が微生物検査でも活かされています。他にも、物事のお考え方や行動することの大切さなど、人生において大切なことを経験することができました。生命工学科には他にも様々な分野の研究室があり、興味がわく分野・研究がきっとあると思います。興味のあることに全力で取り組み、大学生活を楽しんでください。

教育の特色

ライフサイエンス、バイオテクノロジーの多くの分野をカバーできるように、授業の種類が豊富で、基礎から応用までしっかり学ぶことができます。2年次の前期から学生実験が開始され、3年次の後期に研究室に配属されるなど、他大学に比べて早くから学生実験や卒論研究が行われるという特徴があります。早くから実験を経験することは、教科書に記載されている知識だけでなく、様々な実験技術を習得することができるため、将来、技術者・研究者を目指す学生にとって大きなメリットになります。

生命工学科は、学内の総合科学研究支援センター遺伝子機能解析部門と教育・研究で連携しており、センター教員の指導を受けられる学際的卒業研究を積極的に行うとともに、生命工学科のほとんどの学生がこの施設の最新鋭の機器を使って研究を行っています。また、各研究室では、国内外の研究機関との共同研究や産官学連携を通して、より社会に直結した研究も活発に行われており、国際社会はもとより、地域社会へも貢献しています。

また、毎年春と秋に開催されるソフトボール大会や交流会、季節ごとのイベントも盛りだくさんです。

カリキュラム

生命工学科では生命工学教育コースを設定しており、将来、技術者や研究者として活躍できるようにカリキュラムが組まれています。

1年次には基盤科目を履修し、専門の基礎を養います。生命工学基礎セミナーでは、少人数のグループで各研究室を短期間訪問し、生命工学科で行われている研究や各研究室の雰囲気を体験します。

2年次からは、数多く開講されている専攻科目の授業を通して専門的な知識を身につけるとともに、2年次前期から3年次の前期にかけ、一般化学、有機化学、生物物理化学、生物化学、分子生物学、遺伝子工学、細胞工学など多岐の分野にわたる、基礎的な学生実験を行います。

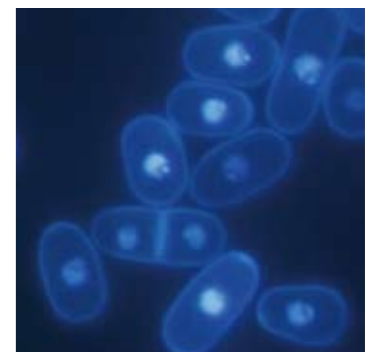
3年次の後期から、各研究室に配属され、生命工学演習や専攻特別実験、卒業論文を通して実践的な知識を学ぶほか、最先端の実験技術を駆使して生命の新たな不思議を解明していきます。

研究

動物、植物、それらの培養細胞、微生物、さらに、様々な生命関連物質を研究対象に、最新の技術を駆使して生命現象の理解と生物の高度な利用を目的とした研究を行っています。例として、肥満の解明を目指した脂肪細胞の研究、動物細胞を使った生理活性物質の作用機構の解明、がん化に関する細胞周期の研究、CoQ10の生産、モデル植物を用いた細胞分化・細胞内物質輸送や情報伝達の研究、眼球に対する紫外線の影響の調査、分子が互いを識別する原理の解明、神経細胞レセプターの薬物応答などの研究、有用酵素や高機能タンパク質の分子設計などの研究、活性酸素種の代謝やビタミンCなど抗酸化物質の合成や生理作用に関する研究など、内容は多岐にわたります。これらの成果は、国内外で開催される学会や学術雑誌などに多数発表され、国際的にも高い評価を得ています。



生命工学基礎セミナーでの各グループ内で議論している様子



分裂酵母(*S. pombe*)の核染色後の蛍光顕微鏡写真

取得可能な資格

- 教育職員免許状
(高等学校一種(理科)、中学校一種(理科))
- 食品衛生監視員
- 食品衛生管理者

卒業後の進路

- 大学院進学(修士課程・博士課程)
- 食品、医薬、化学工業、農林水産業などの技術者、研究者
- 公務員
- 中学・高校教員

生命工学科の
詳しい情報は
Webでチェック!

島根大学 生命工学科





農林業による豊かな暮らしの実現 農林生産学学科

農林生産学学科は、農林業生産による豊かな人間生活の実現を目指し、様々な問題を抱える農産物および林産物に関する持続可能な生産技術、経営・経済、ならびに生産環境を取り巻く生態系について教育と研究を行う学科です。自然、生物、食に関して興味があり、農林業に関する知識・技術・研究・普及に対して熱心に取り組もうとする意欲を持ち、他者を大事にする誠実な人を求めています。本学科は、農業生産学、森林学、農林生態科学、農村経済学の4つの教育コースからなり、相互に連携しながら専門性を高める教育と研究を行います。

活躍する卒業生



倉岡 孝賢さん
2011年(平成23年)3月卒業
(現在)
JAしまね経営管理部
経営管理課職員

現在、JAしまね(島根県農業協同組合)に勤務しています。JAしまねは、平成27年3月に島根県内11のJAが合併して誕生したJAであり、県内約23万人の組合員の方々に貢献できるよう様々な事業を展開しています。

私は、本店経理管理課で種々の取引で発生した収益費用の仕訳処理、法人全体の消費税および法人税の計算を担当しています。

学部時代に学んだ農業に関する基礎知識、さらには研究活動で培った課題解決能力は、私の日々の業務に必要とされる知識・能力であり、大学生活での経験が今まさに役立っていると感じています。

教育の特色

豊かな自然環境に恵まれた山陰地域において、農林業とそれを取り巻く生態系に関するフィールド学習を含む幅広いカリキュラムを通して、国内外の農林業生産について総合的に学びます。将来の進路として、農林業自営、JAなどの農林業団体、種苗・食品・医薬・農業・環境・機械などの農林関連企業、国・地方の公務員、中学・高校の教員、博物館学芸員、大学院進学などがあり、それらを目指して専門的な能力と総合的な知識を身につけます。



▶ 選べる4つのコース

農業生産学教育コース

農業生産学教育コースでは、地球温暖化や生産者の高齢化などの自然・社会環境の変化に直面する農産物の生産とその品質・安全性など、国内外の農業生産現場が抱えている問題を解決するための教育と研究を行っています。高収量、高品質な農作物を生産するための技術開発や品種改良について学ぶことができます。

森林学教育コース

私達の暮らしに欠かせない森林・林業について教育と研究を行います。森林の生態、育成、保全、森林を支える土壌と水環境、森林を利用する林業機械、再生可能なエネルギー利用、森林を計画・管理するための地理情報やリモートセンシング、森林を取り巻く政策・経済など、森林を総合的に学ぶことができます。

農林生態科学教育コース

農林生態科学教育コースでは、植物・昆虫・微生物が織りなす生命現象とその多面的な価値に注目し、持続可能な農林業生産、農林生態系と環境の保全・活用に関する教育と研究を行います。昆虫類の生態と昆虫機能の利用、植物の病気を防ぐための技術、土壌微生物の機能と生態などについて学ぶことができます。

農村経済学教育コース

農業・農村を主な対象とし、その社会経済問題を考察し、解決していくための手法について教育と研究を行います。具体的には農村社会調査の方法、経済学の理論と応用、農業経営・農業政策・市場問題、中山間地域の活性化、農業と関連産業の振興、国内外の資源・環境問題、農業・漁業の歴史などを学ぶことができます。

農林生産学学科では、入学後に4つのコース(「農業生産学」、「森林学」、「農林生態科学」、「農村経済学」)に分かれて教育が行われます。

▶ 専門的な知識を深める

	農林生産への入門	学びを楽しむ	フィールド学習
農業生産学教育コース	農業生産学概論	農業生産基礎セミナー	農場基礎実習
森林学教育コース	森林学概論	森林学基礎セミナー	三瓶の森実習
農林生態科学教育コース	農林生態科学概論	農林生態科学基礎セミナー	農林生態科学実習
農村経済学教育コース	食と農の経済概論	農村経済学基礎セミナー	農村調査分析論

▶ 豊富な専門講義で幅広く学ぶ

- 作物学
- 果樹園芸学
- 野菜園芸学
- 花卉園芸学
- 園芸利用学
- 耕地栽培学
- 植物育種学
- 資源作物学
- 作物栄養学
- 家畜栄養学
- 家畜繁殖学
- 昆虫学
- 天敵学
- 植物病理学概論
- 植物保護学
- 土壌微生物学
- 農業環境科学
- 総合防除学
- 森林生態学
- 森林計画学
- 森林バイオマス資源学
- 造林学
- 森林土壌学
- 森林防災学
- 林政学
- 山村経済学
- 農業経営学
- 農業経済学
- 農政学
- 農学史
- 農業市場経済学
- 地域経済学
- ほか多数

▶ 多彩な研究

農林生産に関する研究テーマを自ら選定・設定し、計画を立てて実験や調査を行い、データを収集します。
指導教員と相談しながら卒業論文にまとめて、最終的に発表を行います。

カリキュラム

農業生産学 教育コース

▶ 地域と地球の農業問題を考える

1年次には大学4年間の学習の基盤となる科目を履修するとともに、基礎実験や本庄総合農場での基礎実習を行います。

2年次から農業生産に関する専門講義や実習などを履修し、3年次になると研究室に配属され、セミナーや研究活動を通して農業における動植物の仕組み、地域の自然環境を活かした生産の方法・改良などについてより深く学んでいきます。

研究室では教員の個別指導により、作物・家畜・園芸などを対象とした専門的研究を行います。各自の興味や将来設計、就職希望などに適した科目を履修して卒業することもできます。



農産物の 研究・開発

地域特産香辛野菜「出雲おろち大根」を開発しました。島根の食材を活かした料理の薬味として、また、島根の特産品としての品種改良や辛味の追求に関する研究を進めています。さらに、農場で生産された農産物を利用した商品開発なども行っています。



取得可能な資格

- 教育職員免許状 (高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補



森林学 教育コース

▶ 森林の育成と保全, 林業の発展に貢献する

1年次には大学4年間の学習の基盤となる科目を履修するとともに、森林学教育コースへの入り口となるセミナー、さらに附属生物資源教育研究センター三瓶演習林での実習を行います。

2年次から森林学に関する各分野の専門講義や実習を履修し、3年次になると各分野に配属され、それぞれの専攻分野の演習や専門実験、卒業研究に取り組みます。

本コースは卒業研究を必修としています。3年次の後期から卒業研究の計画を始め、4年次の秋に中間発表を行います。



森林の 調査・研究

樹木の成長は幹の年輪を調べることで推定できます。下の写真は、スギの木を切り倒して幹を輪切りにしたところです。森林に降った雨の行方と成分を測定して、酸性雨の影響や森林が水質形成に果たす役割を調べています。



取得可能な資格

- 教育職員免許状 (高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●学芸員 ●樹木医補 ●森林情報士(森林GIS部門)



農林生態科学 教育コース

▶ 農林生態系の多様な生物を科学する

1年次には大学4年間の学習の基盤となる科目を履修するとともに、本コースへの入り口となる基礎セミナー、さらに里山での実習を行います。2年次から専門科目を履修し、植物病理学・昆虫生態学・土壌微生物学の実験を行います。3年次になると各分野(研究室)に配属され、専攻分野の演習や専門実験、卒業論文作成のための研究に2年間取り組み、卒業論文の成果を発表します。

本コースでは、特に3年次以降で、極めて多彩な143科目の中から各自の興味、将来設計、就職希望などに適した専門科目を自由に選択できます。



生態系の 調査・研究

相互に関係を保ちながら、農林生態系を構成している多様な生物の生命現象の解明を通して、生物多様性に支えられた豊かで持続可能な農林業生産の実現と、地域社会への貢献を目指した、基礎から応用までの研究を行っています。



取得可能な資格

- 教育職員免許状 (高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●学芸員 ●樹木医補



農村経済学 教育コース

▶ 豊かな農村社会を社会科学から創造する

生物資源科学部の中で唯一、社会科学を広く学ぶことができるコースです。1, 2年次に農村見学、農村調査分析論で社会調査を経験した後、3年次に研究室に配属し、専門分野を深く学びます。社会科学の多様な分野で構成されていることから、各自の関心、目的に合った研究室を選択できます。

また、基盤科目で自然科学の科目を広く選択できる他、農学に関する科目を専門科目として履修でき、農業関係の職に就きやすいように配慮されています。文系理系両方の分野を学ぶことで、就職活動の強みにすることができます。



農村経済の 研究 フィールド

左下は、農村経済学基礎セミナーでの農業体験イベントへの参加の様子です。右下は、農村調査分析論での雲南市役所地域振興課への調査の様子です。このように、農業・農村の実態や社会調査の方法を経験的に学びます。



取得可能な資格

- 教育職員免許状 (高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補

卒業後の進路

- 大学院進学(修士課程・博士課程)
- 中学・高校教員
- 国家・地方公務員 ●博物館学芸員
- JA, 森林組合, 森林公社, 食品, 種苗, 飼料, 農業, 医薬, 機械, 住宅設備, 造園, 環境コンサルタントなどの農林関連企業・団体, 農林自営業

農林生産学部の
詳しい情報は
Webでチェック!

島根大学 農林生産学



豊かな地域環境を理解し、
保全し、創造する



環境調和型社会の実現 地域環境科学科

地域環境科学科は、環境調和型社会の確立を目指し、土・水・生物などの地域の資源や生態環境を適切に調査・評価し、それらを保全・管理するための知識と技術を習得する学科です。宍道湖・中海や中国山地などの豊かな自然と食料生産の場である農山村をフィールドとして、実践的な教育を行います。興味や目的に合わせて深く学ぶことができるように、生態環境科学、環境資源工学、地域工学の3つの教育コースを提供します。就職先には公務員、教員、機械・電機系の会社、IT関連企業、食品関連の会社、建設会社、技術コンサルタント会社、環境コンサルタント会社などがありますが、選択する教育コースによってある程度異なります。

活躍する卒業生



吉田健太郎さん
2014年(平成26年)3月卒業
(現在)
神戸市みなと総局
神戸港管理事務所工務課

現在、神戸市役所において、神戸港の土木施設に対して建設・維持管理を実施し、神戸港経営の基盤の健全性を確保し、神戸市民のくらしと安全性に寄与するための仕事をしています。地域環境科学科(当時、地域開発科学科)では、工事の設計を行うために必要となる測量や支持力計算、コンクリートについての基本的な知識、土木施設の長寿命化や維持・管理の考え方など、様々なことを学ぶことができました。また、難しいからこそ、わからないことを調べる能力が一層研かれ、それらが今の仕事にも活かされています。

教育の特色

入学後に、まず共通の基礎となる科目を学んだ後、2年次夏休み前に教育コース志望届を提出してもらい、教育コースを後期開始時に決定します。そして各コースの発展的な科目や応用的な科目へ進んでいき、身近な生物や環境問題を科学的に捉える方法や、実社会で使われている工学を学ぶとともに、問題解決に必要な広い視野と実践的な技術を養います。地域環境科学科の全教員が3つ全てのコースに関わるため、幅広い内容が学べます。



▶ 選べる3つのコース

生態環境科学教育コース

人と自然との共存や生態系の保全を目指し、生物が生息する水・土環境で生じる様々な現象とそのメカニズムを科学の視点から理解するための知識と方法を学習します。山地・森林から河川・湖沼・海域を含む流域を対象として、陸域と水域における動植物の生育環境や物質循環の調査・解析方法を習得します。

環境資源工学教育コース

生態系と人間活動を共存させつつ、地域資源を有効かつ持続的に利用できるような地域資源循環型社会を実現するための知識と技術を学習します。土、水、大気、生物および人工物を介した物質の移動や循環をマイクロおよびマクロの視点から理解・制御する方法や、水や土壌環境を保全・修復する工学的手法を習得します。

地域工学教育コース

農村地域や中山間地域の有する地域資源(水と土と社会基盤)を有効に活用することによって、地域の豊かな生産環境・生活環境・自然環境を創造し、管理し、保全するための知識と技術を習得します。このコースはJABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けており、卒業生には技術士補の資格が与えられます。



カリキュラム

地域環境科学科で学ぶ科目には、自然環境や生態系の知識に関するものと、人が生活していくために必要な技術に関するものがあります。自然環境と人間生活を共存させ、持続可能な社会を実現するためには、片方の知識だけでは不十分だからです。3つの教育コースすべてで両方の内容を学びますが、生態環境科学教育コースでは自然環境と生態系の知識を中心に、地域工学教育コースでは人間生活のための技術を中心に学びます。環境資源工学教育コースでは、両方の内容を自由に幅広く学ぶことができます。



▶ 3コース共通の基礎知識を学ぶ



▶ 豊富な専門講義で幅広く学ぶ

- 水環境保全学
- 水圏生態学
- 土壌生態学
- 汽水域生態学
- 実用分析化学
- 環境リスク学
- 地域計画学
- 水と緑の環境工学
- 構造力学
- 水質水文学
- かんがい排水学
- 農地保全学
- 水質環境工学
- バイオマス利用学
- 水利施設工学

生態環境科学 教育コース

▶ 人と自然の共存や生態系の保全を目指す

生態環境科学教育コースでは、生物や生態系に関する基礎知識に加え、それらが生息する水圏や土壌圏の特徴について学びます。基礎的な科目としては生態学、環境生物学、水環境学、基礎土壌学などがあり、続いて水圏生態学、汽水域生態学、土壌生態学、植物環境学、環境リスク学といった発展的な内容の科目を履修します。これらに加えて、生態系などに関する調査を行うための基礎的な知識や、豊かな自然を守っていくために必要な技術についても学びます。統計学、水環境保全学、実用分析化学、環境分析化学実験、水質環境工学などの科目が相当します。また、4年次に行う卒業研究の準備として、外書講読、生態環境科学実習や専攻科目実験といった実習や実験が用意されています。



取得可能な資格

- 教育職員免許状
(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●学芸員

環境資源工学 教育コース

▶ 地域資源循環型社会の構築を目指す

豊かな自然環境と快適な人間生活の共存を実現するために、自然環境や生態系を調べて理解するための知識と、資源を浪費しない地域社会を実現するための技術を学びます。自然界の物質循環を理解するために、水環境学、基礎水理学、水質水文学、基礎土壌学、土壌物理学、実用分析化学、環境分析化学実験などの科目を履修し、また、生態学、水圏生態学などを通して生態系に関する基礎的な知識を得ます。さらに、農地工学、農地保全学、かんがい排水学、水質環境工学、バイオマス利用工学などを履修することで、地域での快適な生活を実現する技術について学びます。そして地域計画学、環境リスク学で得た知識を元に、自然環境と人間生活のバランスの取り方に関する考え方を習得します。



取得可能な資格

- 教育職員免許状
(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補

地域工学 教育コース

▶ 地域資源の有効活用を目指す

土・水・社会基盤からなる地域資源を整備、維持することで、良好な地域社会を実現するための知識と技術を習得します。良質な農地を実現できる知識を学ぶために、土壌物理学、農地工学、農地保全学、測量学などを履修します。また水理学、流域水文学、水質水文学、かんがい排水学などの科目を通して、農地へ水を供給するための知識を習得します。また、土質工学、構造力学、水利施設工学などを学ぶことで、機能的な社会基盤を実現するための知識を得ます。さらには地域計画学、地域環境工学演習などの科目によって、自然環境と人間社会のバランス、技術者が持つべき倫理観、解が必ずしも1つではない課題に取り組む力などを身につけ、各種の実験・実習で知識の定着と技術の習得を図ります。



取得可能な資格

- 教育職員免許状
(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●測量士補 ●技術士補

3つの 研究分野

地域環境科学科の教員は、自然環境と人間生活をより良い形で共存させるために様々な研究を行っています。3つの分野というグループに分かれ、それぞれが特徴的な研究を進めていますが、最終的な目標は同じです。学生は3年次後期に卒業研究の指導教員1人を決定し、その教員の指導のもとで卒業研究を行い、卒業論文にまとめます。選択している教育コースに関係なく、好きな分野の教員の指導を受けることができます。

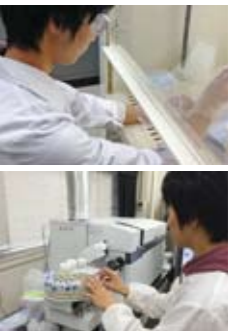
▶ 生態環境工学分野

生態環境工学分野では、自然の保全や、失われた自然環境を取り戻すための学問として発達してきた生態工学をベースに、水や土壌環境の保全・修復に関する研究を行っています。種々の環境問題の解決に向けて活動する人材を育成します。



▶ 生物環境情報工学分野

生物環境情報工学分野では、環境と生物の関わりを調べて活用する研究、物質の時空間分布や偏在の情報収集・予測し環境改善する研究や、生物を構成する物質や個体群のパターンをもたらす因子を明らかにし、その情報を応用する研究を行っています。



▶ 地域環境工学分野

地域環境工学分野では、自然環境と調和した地域の社会基盤を実現するための研究を行っています。水・土・社会基盤のそれぞれを良好に保つための技術や考え方、水や物質の循環を把握し改善する手法などの開発を目指しています。



卒業後の進路

- 大学院進学(修士課程・博士課程)
- 中学・高校教員
- 国家・地方公務員
- 環境調査、緑化、水処理、食品、機械、建設、ソフトウェア開発などの各種企業や団体

地域環境科学科の
詳しい情報は
Webでチェック!

島根大学 地域環境科学科





三瓶演習林における積雪及び融雪の観測



アマモとオヨギソギンチャク

附属生物資源教育研究センター

ここにしかない 自然を活かす

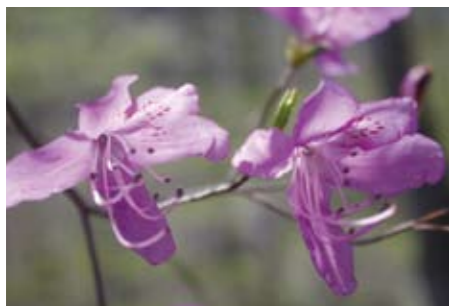
森 林、耕地、海は私たちに不可欠な生活資材や食べ物など様々な生物資源のめぐみを与えるとともに、多様な生物環境を形成しており豊かな人間生活をもたらしています。

生物資源教育研究センターは、森林科学部門、農業生産科学部門、海洋生物科学部門の3部門で構成されています。それぞれの部門では、演習林、農場、臨海実験所などの地域を生かした施設を活用して特徴的なフィールド教育研究活動を行っています。さらに、水が山から里、海に流れていくように、森林、耕地、海の有機的なつながりを意識しながら教養教育、専門教育、さらには社会教育にも積極的に取り組んでいます。

また、自然科学系のみならず人文社会系の学生も受講できる教養科目として「自然と語ろう」を開講しており、さらに他大学生を対象とした公開実習を開講し大学間の教育研究の連携交流を進めています。



ヒメイカ(イカ類最小)



コバノミツバツツジの花



！ 附属生物資源教育研究センターの
詳しい情報はWebでチェック！

島根大学 附属生物資源教育研究センター



森林科学部門

▶ 森を訪れ、森を畏れ、森を学ぶ

島根大学には、島根県内に三瓶演習林(大田市と飯南町)、匹見演習林(益田市)、そして松江試験地(松江市)の3ヶ所の演習林があります。

森林科学部門は、下記のように様々な研究活動を演習林において展開しています。さらに島根大学における森林に関する教育研究の実践の場として整備された演習林は、森林学教育コースをはじめ多くの教育コースの実習教育と卒業研究に利用されています。

あなたもぜひ、島根大学演習林で新しい発見を！

《演習林の長期研究課題》

- 気象観測
- 森林における酸性雨の影響
- 小渓流の流量観測
- 広葉樹二次林の長期動態
- 樹木の展葉落葉フェノロジー
- GNSS基準局の運営



ベイトトラップで採集した昆虫の観察

農業生産科学部門

▶ 人と環境にやさしい農業とは

農業生産科学部門では、農業の生産性向上のための技術と人や環境との関わりを体験できる実習を行っています。本庄総合農場(15ha)にある水田、畑、ガラスハウスで様々な作物を栽培し、作物の育て方や肥料・農薬の使用量が環境に及ぼす影響を観察しながら農業と環境の関わりについて学びます。毎年約120名の学生が農場実習に参加します。

研究活動はおもに松江市の本庄総合農場と出雲市の神西砂丘農場で行われ、以下のような研究や調査を教員・技術職員・学生が協力して行っています。

- 栽培作物の生産性向上要因の解析
- 土耕・水耕栽培における生理障害の要因解明
- 新しい作型・栽培技術の開発
- 土壌中の有機・無機成分のモニタリング
- 地域資源を用いた加工品の開発



海洋生物科学部門

▶ 生命のオアシス…海

海洋生物科学部門には、野外教育研究施設として隠岐の島に隠岐臨海実験所があり、3隻の実習船を備えています。実験所の利用は全国に開放されており、公開臨海実習などで多くの大学生が各地から訪れます。

海は実に多様な生命を育んでいます。臨海実習では、直接、生物とその環境に触れることにより、生物多様性の真の意味、生物の環境への巧妙な適応戦略、生物と人間生活との関連性を学びます。

新鮮な実験材料を利用して、海産無脊椎動物の光感覚、初期発生、生理学的・発生学的研究を行っています。また、近年、日本海沿岸においてミズクラゲやエチゼンクラゲなどの異常発生が多大な漁業被害をもたらしています。それらの異常発生と環境ホルモンなどの環境要因との関連性について調べています。ごく最近、頭足類を使って、生殖システムがどのように進化してきたか、個体、細胞、分子レベルで解き明かす研究プロジェクトが開始されました。

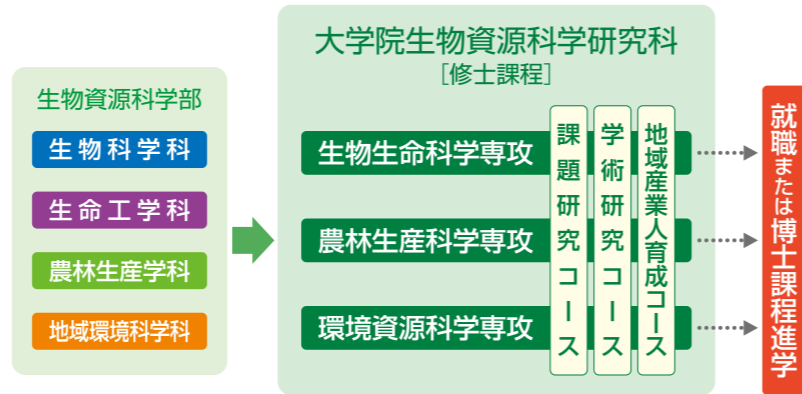


隠岐臨海実験所付近の潮下帯生物群

知識や技術を深め 将来の可能性を広げる

学生が、より高度な専門職に進むことを希望する場合は、大学院に進学して学部では学習できない知識や技術を習得し、個人の能力を高めることが必要と考えられます。このような傾向は全国の大学でも同様であり、大学生の大学院進学が一般化しつつあります。

生物資源科学研究科は、「生物生命科学」、「農林生産科学」、「環境資源科学」の3専攻で構成し、高度な専門知識とともに、幅広い視野を身につけるための関連領域に関する教育の充実を図っています。



生物生命科学専攻

生物の基本原則を理解する

本専攻は、生命分子の構造・性質・複雑な挙動、さらには細胞や個体レベルでの様々な相互作用や階層構造を明らかにすることで、生物現象の原理を追究するとともに、これらの研究成果を社会発展に向けた技術や製品開発に還元することを目指します。生命現象を総合的に理解し探求するうえで必要となる、分子・細胞・個体に至る幅広い知識と研究技能を持ち、柔軟な発想力をそなえ、新たな分野を開拓しようとする人材を育成します。



農林生産科学専攻

第1次産業の発展に向けた科学的探究と研究開発

本専攻は、持続可能な人間生活の実現と生物生産体系の構築ならびに生物生産技術の開発による国内外の農林畜産業の活性化と農耕地および森林の多面的な機能の維持を目指しています。農業、畜産業、水産業および森林・林業について自然科学的側面と社会科学的側面から高度な専門技術と知識を習得し、これらの専門領域の諸問題を自ら発見し解決できる人材を育成します。



環境資源科学専攻

自然と人間が共生できる社会を目指して

本専攻は、自然と人間が共生できる物心とともに豊かな社会の実現に向けて、生活環境、生産環境および自然環境を構成する様々な資源に関する学術、産業、教育、地域文化などへの貢献を目指しています。その実現に向けて、生物学、生態学、工学および農学などの視点や手法に基づいて、環境資源を多角的に理解し、管理し、改善できる高度な見識と学力を有し、また責任感と倫理観も備えた人材を育成します。



教育の特色

専攻それぞれに学生の志向を考慮したきめの細かい教育および研究指導ができるように、「課題研究コース」、「学術研究コース」、「地域産業人育成コース」を設けています。

▶ 選べる3つのコース

課題研究コース

企業や研究所でも大学院修了が一般的な時代になっていることに対応し、専門的な知識をもつ人材を育成します。

学術研究コース

連合大学院博士課程への進学も見据えて、研究職を目指す人材を育成します。

地域産業人育成コース

地域の再生に必要な人材、将来の地場産業の担い手となる人材を育成します。

カリキュラム

大学院では、修了要件となる修士論文、あるいは研究成果の作成が最大の教育目標であり、修得する単位の半数以上が実験や演習・ゼミに関する研究科目になります。さらに、幅広い知識と倫理観を養うための専攻共通科目と、高度な知識と技能を身につけるための専攻科目が開講されています。



▶ 就職の選択肢が広がる

大学院を修了して就職しようとする、学部卒学生に比べて、研究・開発職に就く割合が非常に高くなるのが過去のデータから示されています。

また、大学院修士課程を修了した学生は、さらに学問を究めるために、大学院博士課程に進学して博士の学位取得を目指すこともできます。

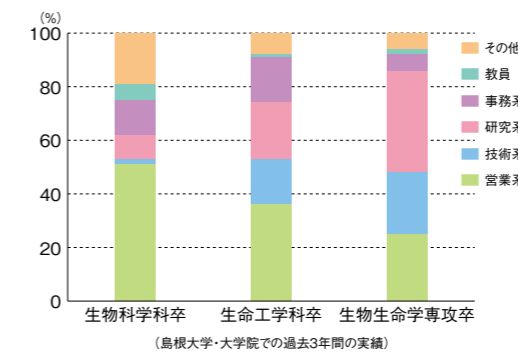
▶ 将来の給与に違いがある

大学院を修了した学生の初任給は、1割程度高くなるのが厚生労働省の調査結果により示されています。

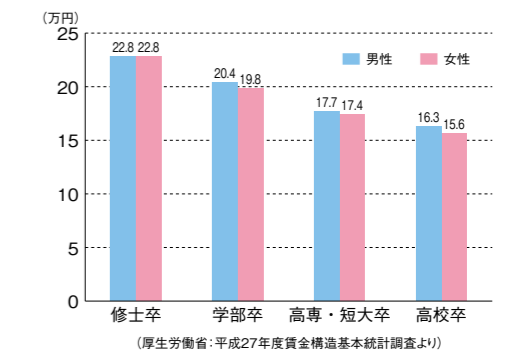
学歴が上がれば初任給も上がることから、職業がより専門的かつ高度な内容になるとともに、企業も大学院を修了した学生の採用を重視していることが伺えます。

さらに、技術職・研究職では、待遇などの面において男女間の差がなく、給与の面でも差がなくなることがわかります。

● 就職時の職種の比較〈生物生命科学専攻の場合〉



● 初任給の比較



修了生からのメッセージ



舩本 将明さん
平成24年度修了生

私は農学系の県職員として働いています。現在は農家に対して農産物の栽培に関する農業技術普及活動のほか、県内の農業振興のための国や市町村を交えた補助事業に関する仕事などを行っています。また、県の研究機関では品種改良や新しい栽培技術の開発などの専門的な研究もっており、様々なことにチャレンジすることができます。

学生時代は自分の人生を豊かにするための「財産」を見つける時間であると思います。勉強はもちろんですが色々なことができるので、何事にも積極的に挑戦してください。島根大学にはそれを一緒に経験してくれる仲間と、最大のサポートをしてくれる先生がいます。

大学院
生物資源科学研究科の
詳しい情報は
Webでチェック!

島根大学 大学院 生物資源科学研究科



興味のあることを追求し、
仲間との親睦を深める



地域環境科学科
2年生

井上裕由さん

岡山龍谷高校出身

地域環境科学科では、地域資源の有効活用や生態系の修復について学ぶことができます。講義では、様々な専門分野の授業から自分の学びたい授業を受講することができます。さらに、ゴビウスや中海への野外実習や環境分析実験もあり、実際に見ることで今まであまり関心のなかった分野に関心を持つことができ、理解もより一層深まります。また、実習を通して学科の人とコミュニケーションをとることで親睦を深めることができます。皆さんもぜひ、地域環境科に興味のあることを追求し、一緒に充実したキャンパスライフを満喫しましょう！

〈島根大学おすすめスポット〉附属図書館本館



附属図書館本館は、平成25年4月にリニューアルしました。明るく使いやすい設備と、静かで落ち着いた環境の中で学習することができます。勉強の合間にくつろげるコーナーも利用できます。図書館を効果的に利用し、豊かで充実した学生生活を送りましょう。

L I F E

2年生と4年生のリアルな一日を公開！

- 7:00 ● 起床・朝食
- 8:30 ● 講義：水圏植物学
今日は生態系における生物間競争とニッチについて学習しました。宍道湖など身近な環境の話題が豊富で興味を持って受講できます。
- 10:15 ● 講義：野菜園芸学
自分の興味に合わせて講義のスケジュールを組むことが可能なので、自分が興味を持っている植物に関連した農林生産学科の講義も受講しています。
- 12:00 ● 昼食
- 12:45 ● 講義：実用分析化学
環境分析を行う上での基本的な概念を学んでいます。計算が多くて難しいです。
- 14:30 ● 実験：環境分析化学実験
今日は中和滴定を行います。ちょうど実用分析化学の講義で、化学平衡とpHの計算を学んだばかりなので、実験の内容の理解もやすく、講義の復習にもなります。
- 17:45 ● 部活動
吹奏楽部に所属して、ホルンの担当です。中学校から続けていて、大学でも良い仲間に恵まれて楽しく演奏しています。
- 20:00 ● 夕食
- 21:00 ● 帰宅
- 24:00 ● 就寝

実験を通して、
科学的思考や実験技術を
身につける



農林生産学科
4年生

中尾真菜さん

島根県立出雲農林高校出身

農林生産学科は、「農業生産学教育コース」「森林学教育コース」「農林生態科学教育コース」「農村経済学教育コース」の4コースから構成されています。私は農林生態科学教育コースに所属しており、100以上の科目の中から自分の興味のある講義を選択し、幅広く学ぶことができます。また、多くの実験科目が用意されているので、専門的な知識だけでなく、科学的思考や実験技術を身につけることができます。

農林生産学科は魅力的な講義や実験が多く、スポーツ大会などの交流イベントもあるので同級生はもちろん、先輩後輩の仲がとても良いです。やる気さえあれば、自分の学びたいことがとことん学べますので、ぜひ皆さんも、農林生産学科で楽しい学生生活を送りましょう！

〈島根大学おすすめスポット〉学生市民交流ハウス



学生市民交流ハウスは、地域の方々と本学学生との交流の場として利用するために造られました。イベントやサークル活動の場、日頃の休憩場所として、利用してください。

- 7:00 ● 起床・朝食
- 8:30 ● 学習・実験の準備
実験の準備や図書館で勉強をします。最近ではTOEICの試験に向けて勉強しています。
- 11:45 ● 昼食
友達と一緒に食堂や研究室の休憩室で食べます。島大の近くには美味しい飲食店もたくさんあるので、時々でかけるのが楽しみです。
- 13:00 ● 実験：卒業研究
写真はイネのDNA抽出の様子です。実験は失敗することも多くありますが、自分がとても興味があるテーマなのでとても楽しいです。
- 16:15 ● 講義：農政学
農業に関する国の政策について学びます。
- 18:00 ● 夕食
研究室の休憩室で食べています。研究室の先輩や後輩と何気ない話で盛り上がりたりして楽しい一時です。
- 18:30 ● 学習
図書館や研究室にある自分の机で授業の予習・復習・レポートの作成、研究発表の準備、TOEICの勉強などをします。
- 21:00 ● 帰宅
本を読んだり、映画を見たり好きな時間を過ごしています。
- 24:00 ● 就寝

Message

from students



生物系科学の専門的な知識や能力を養う、
生物資源学部には魅力がいっぱい。
在校生に、その魅力を語ってもらいました。



01
矢野 優樹さん
生物科学科
生物科学教育コース
4年生

生物科学科は、生物に関する知識を幅広く学ぶことのできる学科です。生物科学科には、動物・植物は勿論、細胞から生態系まで様々な専門分野を持つ先生方がいらっしゃり、講義や実験を通してそれぞれの分野に関して大変丁寧に教えてくださいます。1年生から行われる「生物科学セミナー」では、少人数のグループに分かれて自分の興味のある事柄に関してテーマを設定し、資料を集めて調べ、先生を交えて議論し、結果を決められた時間の中で発表することによって、その後の研究に活きる「自主的に調査・研究を行う」力を養うことができました。また、2年生の時に日本海の離島である隠岐の島にある臨海実験所の周辺で泳いだ時、四方を無数の魚たちに囲まれた時の衝撃と感動は今でも忘れることができません。4年生の現在、私は原生生物に関する研究を行っていますが、宍道湖で水を探取し顕微鏡で観察してみると、採取地点によって棲息する原生生物の種類が大きく異なっていて驚くことがあります。このような島根の自然を研究テーマにすることができるのも生物科学科の特色だと思います。

生物科学科では、生物について学ぶ意欲と科学的好奇心を持つ人を歓迎してくれます。皆さんも緑豊かな松江の地で、生物についてより広く深く学んでみませんか？

02
藤江 佑紀さん
生命工学科
生命工学教育コース
4年生

生命工学科では、化学・物理も含めた広い視点から生物について考える力を養うことができます。1年次には生命工学基礎セミナーという授業があり、研究室で実験の一部を体験したり、研究施設に見学に行き、島根で行われている研究の内容を教えてもらったりすることができます。2年次からは学生実験が始まり、卒業研究を行う上での基礎的な知識や技術を身につけることができます。3年次後期には研究室配属があります。ここから卒業研究のテーマを与えられて、本格的な実験が始まります。研究室では、学生実験や授業で学んだことだけでなく、論文やかつての先輩が得たデータをもとに、先生や先輩に相談しながら自分で考えて実験を進めていくこととなります。期待した結果が得られず、苦しい時期もありますが、たくさんの方々からのアドバイスや協力を得ながら実験を続けて、結果が得られた時の感動や達成感は素晴らしく、自分自身の成長も感じられます。先輩の中には失敗を繰り返しながらも結果を得て、学会で発表された方もいます。研究室での生活は、研究ばかりでなく、休憩時間に先輩や同級生との交流を通して新しい発見を得ることもできます。春と秋には研究室対抗のソフトボール大会が開催され、研究室内の親睦を深めることができます。皆さんもぜひ、生命工学科で学んでいきませんか？

03
久保 抄葉さん
農林生産学科
農業生産学教育コース
4年生

農業生産学教育コースは、1年生のうちから実習や実験があります。週1回の農場実習では、田植えやブドウの剪定、ブルーベリーやサツマイモの収穫など様々な経験をしてきました。2年生は各専門分野の講義から興味のある分野を選択して受けられ、3年生からは研究室に配属されてゼミ発表や実験を行います。そして、4年生となった今では農作業や実験などで毎日忙しくも充実した日々を送っています。このように、座学はもちろん実習を通して自分の知りたい、やりたい分野を知り、詳しく学んでいけることがこのコースの大きな魅力だと思います。農業に興味がある人、ぜひ一緒に農業について学びませんか？

04
小原 宏也さん
農林生産学科
森林学教育コース
4年生

“森林”と聞いて何を想像しますか？突然こんな質問をされても、バツと思いつかばないかもしれません。森林学は、“森林”について生態、造林、土壌、水、利用、政策、経済、中山間地、バイオマスなど様々な方向から考える学問です。森林学教育コースでは、幅広い講義により、森林に関する多面的な知識を学ぶことができます。そして、演習林などの野外フィールドにおいて、植物・生態調査、森林測量・計測、中山間地調査などの実習・実験があり、実際に森林や山村に入って、実践的に知識を応用し理解を深め、技術を習得することができます。“森林学”と一言で言っても色々な分野があるので、大学でやりたいことが具体的に決まっていなくても、在学中にきっと見つかると思います。現在も、人工林の管理不足による森林の荒廃、土砂災害の発生、林木の病虫獣害など、森林・林業を取り巻く様々な課題があります。大学生活の4年間、森林学教育コースで精一杯遊んで、一生懸命勉強して、森林のように多様で面白い大学生活にしてみませんか。

05
木村 拓登さん
農林生産学科
農林生態科学教育コース
4年生

農林生態科学教育コースは、昆虫生態学、植物病理学、微生物生態学の3つの研究分野で構成されています。まず昆虫生態学分野では、農作物の花粉媒介を行うハナバチ類の生態やその保全、昆虫の生理を利用した農業害虫の防除技術について学ぶことができます。次に植物病理学分野では、植物の病気の発生メカニズムや、発病を防ぐ「環境にやさしい」防除技術について学ぶことができます。最後に微生物生態学分野では、農業などの有機化合物を分解する有用微生物や植物の発育に寄与する共生微生物の利用などについて学ぶことができます。研究分野の決定は3年次前期に行われます。このため本コースでは早くから卒業研究のテーマを持つことができます。1、2年次に身につけた知識や実験操作に関する基本的なスキルをベースに、3年次からは卒業研究に向けた実験、調査、データの解析などを行い、成果を4年次に卒業論文としてまとめます。本コースでは新入生の歓迎会や球技大会など年間を通して多くの行事があり、研究分野間で活発な交流があります。先生や先輩方の親身で手厚い指導もあり、学習環境が整っています。持続可能な農業技術や農林生態系の保全などに興味があるなら、ぜひ農林生態科学教育コースへ！

06
亀山 万里さん
農林生産学科
農村経済学教育コース
3年生

私が所属している農村経済学教育コースでは、自然科学だけでなく、農業経済学や農業経営学、農史といった社会科学まで幅広く学ぶことができます。理系文系の枠を超えて、自らの関心のある分野の知識を深めることができるのも、このコースの魅力の一つであると私は感じています。このコースでは、中山間地域と関わる機会が多く、1年次から自然が豊かな島根県の先進的な取り組みを学ぶことができます。私も農村調査分析論という授業で1年間を通して地域に向き、地域食文化班として活動を行いました。過疎化・高齢化が進行する中で、どのようにして地域の食文化を継承していくかということ調査し提案しました。実際に、アンケート調査や料理教室などを行い、地域の方々と密接に関わることで貴重な経験となりました。このコースでは、先輩や先生方と共に、フィールドワークや文献調査といった様々な手法を用いて問題にアプローチすることができます。優しい先生方や頼もしい先輩が待っています。ぜひ農村経済学教育コースで充実した大学生を送りましょう！

07
山下侑希也さん
地域環境科学科
生態環境科学教育コース
3年生

私は生態環境科学教育コースに所属し、「生態環境」という文字通り生態系の保全や、失われた自然環境を復元するための学問を学んでいます。このコースは水の分野と土の分野の二つに大きく分けられ、前者では河川・湖沼の水域において、水生生物の生息環境や水質浄化機能のメカニズムを理解するための方法を学習しています。後者では、主に土壌の質や土の環境における役割、また、土壌断面の地層から、なぜそのような土壌が生成したのか、どのような特徴を持っているのかなどを調査します。そして、水の分野では河川や湖沼などの流域、土の分野では農場や干拓地というように、どちらの分野も野外実習に行きます。実際に行ってみないとわからないことも多くあり、各自の五感を使って自然現象を観察し、感性を高めることもできます。このコースには優しい先生方、頼りになる先輩もたくさんいます。皆さんも生態環境科学教育コースで新しい発見をしてみませんか？

08
児玉 毬音さん
地域環境科学科
環境資源工学教育コース
3年生

環境資源工学教育コースは、簡単に言うと、生態系も工学系も学ぶことができます。生態環境科学教育コースと地域工学教育コースを足して2で割ったようなコースです。生態系の保全や修復、地域資源を有効に利用するための知識や技術を学ぶことができます！授業や実験では主に、物理や化学の知識が必要とされていますが、それらが苦手な私はいつも同じコースの仲間助けられています！3つのコースの中で1番人数が少ないため、全員の仲が良く、テスト勉強や課題は集まって教え合ったり、誰かの誕生日を皆で祝ったりと、賑やかなコースです。生態系も工学系も学ぶため、他のコースの人達と授業と一緒にすることも多く、実験や実習を通して他のコースと関わりが深いのも特徴の一つだと思います。大学は勉強だけでなく、色々な活動を通して成長できる場です。大学には人がたくさんいます！うまくいかず、辛いこともたくさんありますが、めげそうになる度に、友人、先輩方、先生方から日々助言をもらい楽しく毎日を送っています！

09
和田 望里さん
地域環境科学科
地域工学教育コース
3年生

私は地域工学教育コースに所属しています。地域工学という何を学んでいるのか疑問に思う人もいるかもしれませんが、私たちは主に水、土壌に関する知識と技術を学んでいます。水や物質の循環メカニズムや、作物の生育に適した土壌の性質、構造物を建設する際に必要な土壌条件などを幅広く学習することで、自然環境との調和や技術者が持つべき倫理観を身につけることができます。少し難しいように思われるかもしれませんが、大学で初めて学ぶ内容が多いので、先生がわかりやすく解説してくれます。講義でわからなかった点は、コースの先輩がサポートしてくれます。そして、講義の中で知識として学んだことを実験や実習を通して体験することで、楽しく、より理解を深めることができます。地域工学教育コースでは毎日がとても充実しています。ぜひ、皆さんも楽しく充実した大学生を送りませんか？

充実したキャンパスライフのために 様々な形で学生をサポート



学生支援センター

指導教員制度

入学時から助言、指導を受けられるよう「指導教員制度」を取り入れています。修学関係や学生生活全般にわたる悩みなどに対して、助言・指導を行う体制を整えています。

学生相談

生活上の様々な悩み事の相談については、指導教員制度のほか、学生支援センターにおいて相談員(教職員)が学生の個人相談に応じています。また、保健管理センターにおいても健康相談、心理相談などについて応じています。

修学支援

修学支援については、学生センターが担当し、学部ごとに対応しています。さらに、学務情報システムにより、インターネットを利用した履修登録、シラバス検索、成績確認ができ、パソコンを持っていれば学内に多数配置してある情報コンセントや無線LANにより、いつでも確認することができます。

経済的支援

授業料免除制度

経済的に授業料の納入が困難で成績優秀と認められる学生に対して、半期ごとに授業料の全額または半額を免除する制度があります。また、成績優秀者、正課外活動優秀者に対して、授業料を免除する制度もあります。

奨学金制度

日本学生支援機構奨学金のほか、地方公共団体、民間団体による奨学金制度も取り扱っています。

授業料奨学融資制度

経済的に授業料の納入が困難で、修学に支障がある学生に対して、銀行から授業料を融資してもらえる制度です。在学期間中は、その融資に対する利子を本学で負担します。返済は卒業後で、金利も低くなっており、卒業後に島根県、鳥取県内に就職などした場合には、さらに低い金利となるものです。

その他、学生生活のサポートについて、
生物資源科学部ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>



島根大学 生物資源科学部



強力な支援体制で 就職をバックアップ



キャリアセンター

生物資源科学部では、島根大学キャリアセンターとの密な連携の下、教職員を挙げて学生の就職活動を支援しています。

職種に応じた 就職セミナーや面接指導、 資格取得プログラムの実施

キャリアセンターが企画する就職ガイダンスや面接などの実践指導に加え、在学生の保護者で組織される後援会の支援を受けて、官公庁や企業、就職コンサルタントから講師を招いた学部、学科独自の就職セミナーを実施しています。このセミナーの講師には本学部の卒業生も多く、個々の学生の希望や適性に応じた親身な指導を行っています。また、教員免許や学芸員、技術士補など、各種の資格を得るための教育プログラムも充実しています。

就職情報・資料の 提供

キャリアセンター内にある「キャリアカフェ」では、学生がキャリアについて考え、情報交換し、満足いくキャリア選択ができるよう、種々の就職情報やインターンシップ情報の提供、就職ガイダンス・セミナーを収録したDVDの貸出、就職情報番組の上映などを行っています。学部でも、リフレッシュコーナーなど建物の随所に掲示板を設け、求人情報などを提供しています。また、センターの進路・就職システムに登録することにより、求人情報のメール配信やWebを介した種々のサービスを利用することができます。

就職アドバイザーの 配置

生物資源科学部では各学科に就職担当の教員を配置し、求人情報の提供や就職活動に対するアドバイスなどをいつでも受けられるよう、きめ細やかな指導を行っています。また、キャリアセンターでも、専門の相談員が毎日相談を受け付けています。

主な就職先

- 生物科学科 / 大学法人[鳥取大学、佐賀大学、川崎医科大学、愛媛大学]、中・高教員[島根・鳥取・広島・岡山・神奈川・熊本・沖縄・長崎]、大阪国税局、地方公務員[島根県、島根県警察、鳥取県産業技術センター、飯南町役場、四国中央市、神戸市]、動物関係[六道湖自然館ゴビウス、須磨海浜水族園、しものせき水族園、(株)なかやま牧場、高知県立野市動物公園、姫路動物病院]、医薬関連[新田セラチン(株)、資生堂ジャパン(株)、キョーリン製薬(株)、三共製薬(株)、富士フィルムR1ファーマ(株)、(株)昭和メディカルサイエンス、小西医療器(株)、島津メディカルシステムズ(株)、ダイヤ製薬(株)、(株)再春館製薬所、第一三共(株)、日本臓器製薬(株)、食品関連[オタフクソース(株)、日本ジェネラルフード(株)、山崎製パン(株)、名古屋製酪(株)、ケンミン食品(株)、寿製菓(株)、名城食品(株)、アオハタ(株)、日本澱粉工業(株)、金融関連[大分銀行、山陰合同銀行、野村證券、広島市信用組合、日本海信販]、日本IBM(株)、(株)毛髪クリニックグループ21、日本郵政(株)、旭化成(株)、アース環境サービス(株)、(株)出雲村田製作所、大和ハウス工業(株)、(株)田中種苗、くまびき農業協同組合
- 生命工学科 / 塩野義製薬(株)、大塚製薬(株)、大鵬薬品工業(株)、湧永製薬(株)、大関(株)、五州製薬(株)、日本新薬(株)、東興薬品工業(株)、ニチニチ製薬(株)、(株)新日本科学、フジパン(株)、山崎製パン(株)、アンデルセングループ、日本ハム(株)、グリコ栄養食品(株)、(株)オイス、マルハマ食品(株)、寿製菓(株)、丸京製菓(株)、(株)さんれいフーズ、(株)ますやみそ、アルファー食品(株)、三基食品(株)、理研ビタミン(株)、(株)やましろ、(株)青木松風庵、こだま食品(株)、井村屋(株)、キュービー(株)、池田糖化工業(株)、植田製油(株)、松本油脂製菓(株)、川西工業(株)、大東化成工業(株)、(株)旭ボリスライダー、(株)ノエビア、長谷川香料(株)、日本コルマー(株)、(株)アバンティ、化学物質評価研究機構、残留農業研究所、京セラメディカル(株)、東芝メディカルシステムズ(株)、国際衛生(株)、ナガノサイエンス(株)、小西共和ホールディング(株)、本部三慶(株)、(株)タカゾノ、(株)山陰合同銀行、日本郵便(株)、JAバンク、鳥根銀行、野村證券(株)、島根県産業技術センター、警視庁、島根県警察、島根県職員、山口県職員、松江市職員
- 農林生産学科 / 国家公務員[農林水産省・植物防疫所、防衛省、国税庁]、地方公務員[島根県、広島県、岡山県、兵庫県、大阪府、福岡県、長野県、香川県、山梨県、大分県、長崎県、福山市、浜松市]、教員[島根県、兵庫県、静岡県、宮崎県]、JA[しまね、まにわ、みえきた、丹波ひかみ、ながさき]、公益財団法人しまね産業振興財団、邑智郡森林組合、松江商工会議所、山崎製パン(株)、(株)さんれいフーズ、(株)日本サンガリアアペパレヅカンパニー、カネテツテリカフーズ(株)、日本食研ホールディングス(株)、クニヒロ(株)、マルハマ食品(株)、日本牛乳野菜(株)、日本ハムファクトリー(株)、(株)籠谷、イチビキ(株)、(株)やまみ、(株)ヒラタ、藤本製菓(株)、日本製紙(株)、三光(株)、米子ガス、(株)荒谷建設コンサルタント、(株)青木商店、高松青果(株)、名果(株)、東亜青果(株)、(株)コスモス薬品、(株)ツルハグループドラッグ&ファーマシー西日本、(株)コメリ、(株)カネエ、LPCグループ、(株)マッシュアンドフルーツ、(株)八紘(農事組合法人ふるさと農園)、農事組合法人吉浦牧場、(株)なかやま牧場、(有)大田原農場、イオンアグリ創造(株)、(株)オルト(和歌山)、(株)ミヨシ産業、須山木材(株)、丸和林業(株)、住友林業(株)、京都信用保証協会、日本政策金融公庫農林水産事業、(株)商工組合中央金庫、(株)山陰合同銀行、ヤンマー農機製造(株)、(株)出雲村田製作所、山陽薬品(株)
- 地域環境科学科 / 防衛省、国土交通省中部地方整備局、国土交通省中国地方整備局、岐阜県庁、愛知県庁、島根県庁、大分県庁、岐阜県岐阜市役所、愛知県名古屋市区役所、兵庫県神戸市役所、島根県安来市役所、島根県邑南町役場、岡山市消防局、宮崎県延岡市役所、鹿児島県奄美市役所、兵庫県中学校(教諭)、精華女子高等学校(講師)、重慶市水務局、西播磨水道企業団、島根県土地改良事業団体連合会、JA兵庫南、JAいずも、都コンサルタント(株)、中国環境(株)、(株)四電技術コンサルタント、(株)太平エンジニアリング、(有)日本シジミ研究所、テバ製薬(株)、日本ヒューム(株)、雪印種苗(株)、カナツ技建工業(株)、今治造船(株)、(有)カネマツ建設、アクサス(株)、(株)フジタ、丸和林業(株)、(株)プロビズモ、Pro-X(株)、(株)三井開発、ホシザキ阪神(株)、広成建設(株)、ソフトバンクテクノロジー(株)、藤本製菓(株)、ムラタ計測器サービス(株)、日本生命保険相互会社、サンイン技術コンサルタント(株)、(株)バサラダイニング、イオンビッグ(株)、ケイエム調査設計、ジャパンフーズ(株)、丸大食品(株)、(株)伊藤園、(株)アワーズ、(株)テクノプロジェクト、(株)モンベル、(株)横森製作所、(株)鈴木、高松信用金庫、米子信用金庫、山陰酸素工業(株)、松江土建(株)、日本郵便(株)

卒業後の進学

- 大学院の進学支援体制 / 各学科で現役の大学院生などを講師に、大学院での教育・研究についてのわかりやすい情報を得るための「大学院進学セミナー」を開催しています。

【生物資源科学研究科修士課程】 修士号の取得 【連合農学研究科博士課程】 博士号の取得

入学試験

幅広い方法の入学試験の実施で 広がる合格のチャンス



■学科別・日程別募集人員

学 科 名	募 集 人 員					
	前期日程	後期日程	アドミッション・オフィス (AO)入試	推薦入試	合 計	帰国生入試
生 物 学 科	17	5	6	7	30	若 干 名
生 命 工 学 科	29	5		5	40	若 干 名
農 林 生 産 学 科	54	10		19	85	若 干 名
地 域 環 境 学 科	27	8		8	45	若 干 名
計	127	28	6	39	200	

※1. いずれも、詳細は入試要項、学生募集要項などをご参照ください。 ※2. アドミッション・オフィス (AO) 入試は地域貢献人材育成入試として、学部全体で6名の募集とします。

■入試方法

区 分	一 般 入 試		アドミッション・オフィス (AO)入試	推 薦 入 試	帰 国 生 入 試
	前期日程	後 期 日 程			
試 験 内 容	大 学 入 試 センター試験 + 個別学力試験	大 学 入 試 センター試験 + 面 接 (生物科学科・生命工学科・地域環境科学科)	【第1次選考】 出願書類による選考 【第2次選考】 小 論 文 + プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	小 論 文 (生物科学科以外) + 面 接	小 論 文 + 面 接

※各学科が大学入試センター試験において課す教科・科目、個別学力試験の科目、配点などについては、入試要項、学生募集要項などをご参照ください。

■3年次編入学

学 科 名	募 集 人 員		入 試 方 法	
	推薦による入試	一 般 入 試	推薦による入試	一 般 入 試
生 物 学 科	合 計 20名		面接及び口頭試問	筆 記 試 験 + 面 接 及 び 口 頭 試 問
生 命 工 学 科				
農 林 生 産 学 科				
地 域 環 境 学 科				

※編入学試験は平成28年6月4日(土)に実施しました。

入試情報に関する問い合わせ先

●入試要項などの請求先

島根大学教育・入試企画課 **TEL0852-32-6073**
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 FAX0852-32-9726 [E-mail] epd-nnyushi@office.shimane-u.ac.jp

●入試情報の提供

<http://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

島大 入試



オープン
キャンパス
平成28年
8月7日(日)

■平成28年度入試 実施状況

学 部	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	入学者内訳 (%)						
							男	女	県内	県外	現役	既卒	その他
生物資源科学部	前	130	356	332	146	154	65.0	35.0	12.3	87.7	82.8	15.8	1.5
	後	25	253	131	33								
	AO I	6	17	15	7	7							
	推 I	39	107	107	42	42							
	帰国	若干名	1	0	0	0							
計		200	734	585	228	203	—	—	—	—	—	—	—

注1) 「前」…前期日程 「後」…後期日程 「AOI」…AO入試 I (センター試験を課さない) 「推 I」…推薦入試 I (センター試験を課さない) 「帰国」…帰国生入試
注2) AOIの受験者数は第1次選考不合格者を除く数である。

■一般入試

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者	
生物資源科学部	生 物 学 科	前	17	52 (24)	51 (23)	18 (8)	21 (8)	
		後	5	52 (28)	23 (11)	5 (1)		
	生 命 工 学 科	前	29	66 (26)	61 (25)	33 (13)	35 (13)	
		後	5	36 (18)	9 (3)	5 (1)		
	農 林 生 産 学 科	前	54	171 (49)	157 (43)	60 (16)	62 (18)	
		後	10	73 (19)	73 (19)	17 (6)		
	地 域 環 境 学 科	前	30	67 (20)	63 (19)	35 (12)	36 (13)	
		後	5	92 (46)	26 (14)	6 (4)		
	計			155	609 (230)	463 (157)	179 (61)	154 (52)

注) ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

■AO入試

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生物資源科学部	全 学 科	AOI	6	17 (6)	15 (6)	7 (4)	7 (4)
	計		6	17 (6)	15 (6)	7 (4)	7 (4)

注1) ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。 注2) 受験者数は第1次選考不合格者を除く数である。

■推薦入試

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生物資源科学部	生 物 学 科	推 I	7	31 (18)	31 (18)	7 (5)	7 (5)
	生 命 工 学 科	推 I	5	12 (5)	12 (5)	5 (2)	5 (2)
	農 林 生 産 学 科	推 I	19	48 (13)	48 (13)	21 (6)	21 (6)
	地 域 環 境 学 科	推 I	8	16 (3)	16 (3)	9 (2)	9 (2)
	計		39	107 (39)	107 (39)	42 (15)	42 (15)

注) ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

■帰国生入試

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生物資源科学部	生 物 学 科	—	若干名	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	生 命 工 学 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	農 林 生 産 学 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	地 域 環 境 学 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計		—	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注) ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

個性豊かな教員が学生と一体となり
エキスパートを育成



生物科学科

- 赤間 一仁 教授 (植物分子生物学)
- 尾崎 浩一 教授 (動物分子生物学)
- 西川 彰男 教授 (動物発生生物学)
- 松崎 貴 教授 (毛髪生物学)
- 林 蘇娟 教授 (植物進化多様性学)
- 秋吉 英雄 准教授 (内臓進化論)
- 石田 秀樹 准教授 (原生生物学)
- 大島 朗伸 准教授 (微生物生理学)
- 児玉 有紀 准教授 (共生生物学)
- 初見 眞知子 准教授 (進化集団遺伝学)
- 舞木 昭彦 准教授 (理論生態学)
- 秋廣 高志 助教 (植物細胞生物学)
- 高原 輝彦 助教 (動物生理生態学)

生命工学科

- 石川 孝博 教授 (応用生物化学)
- 尾添 嘉久 教授 (情報分子工学)
- 川向 誠 教授 (遺伝子工学)
- 澤 嘉弘 教授 (タンパク質工学)
- 山本 達之 教授 (生命分子分光学)
- 横田 一成 教授 (分子細胞生物学)
- 池田 泉 准教授 (生命有機化学)
- 戒能 智宏 准教授 (応用微生物学)
- 清水 英寿 准教授 (栄養・病態生理学)
- 地阪 光生 准教授 (食品機能学)
- 丸田 隆典 准教授 (バイオシグナル工学)
- 古田 賢次郎 助教 (化学生物学)
- 松尾 安浩 助教 (分子生物学)
- 吉清 恵介 助教 (分子認識工学)
- 小川 貴央 特任助教 (植物分子生理学)

農林生産学科

- 浅尾 俊樹 教授 (施設園芸学)
- 板村 裕之 教授 (果実成熟生理学)
- 一戸 俊義 教授 (動物生理学)
- 井藤 和人 教授 (微生物生態学)
- 伊藤 勝久 教授 (森林政策学・山村経済学)
- 伊藤 康宏 教授 (水産史・水産経済学)
- 井上 憲一 教授 (農業経営学)
- 上野 誠 教授 (植物病理学)
- 内田 和義 教授 (農学史)
- 太田 勝巳 教授 (園芸発育調節学)

- 木原 淳一 教授 (植物病理学)
- 小池浩一郎 教授 (林業経済学)
- 小葉田 亨 教授 (作物生産学)
- 小林 伸雄 教授 (園芸育種学)
- 松本 敏一 教授 (果樹園芸学)
- 宮永 龍一 教授 (動物生態学)
- 吉村 哲彦 教授 (森林利用学・森林情報学)
- 赤沢 克洋 准教授 (環境経済学)
- 泉 洋平 准教授 (害虫管理学)
- 江角 智也 准教授 (園芸生理機能学)
- 門脇 正行 准教授 (作物学)
- 川口 英之 准教授 (森林生態学)
- 久保満佐子 准教授 (森林生態学)
- 小林 和広 准教授 (作物生産学)
- 巢山 弘介 准教授 (土壌微生物学・農業環境科学)
- 中務 明 准教授 (園芸分子育種学)
- 橋本 哲 准教授 (森林水文学)
- 森 佳子 准教授 (農業経営学)
- 山岸 主門 准教授 (農作業学)
- 米 康充 准教授 (森林計測学)
- 保永 展利 講師 (地域経済学)
- 足立 文彦 助教 (作物生産学)
- 城 惣吉 助教 (土壌微生物学)
- 宋 相憲 助教 (動物生理学)
- 高田 晋史 助教 (開発経済学)
- 高橋絵里奈 助教 (森林計画学)
- 田中 秀幸 助教 (施設園芸学)
- 中間由紀子 助教 (農政学)
- 林 昌平 助教 (微生物生態学)
- 藤巻 玲路 助教 (森林生態学)
- 氏家 和広 特任助教 (作物生理学)

地域環境科学科

- 喜多威知郎 教授 (水・緑利用工学)
- 佐藤 利夫 教授 (環境技術工学)
- 武田 育郎 教授 (水質水文学)
- 長束 勇 教授 (施設機能工学)
- 増永 二之 教授 (土壌園生生態学)
- 谷野 章 教授 (生物環境工学)
- 山口 啓子 教授 (水圏生態工学)
- 石井 将幸 准教授 (地域基盤工学)
- 桑原 智之 准教授 (水環境保全学)
- 鈴木 美成 准教授 (生物環境化学)
- 宗村 広昭 准教授 (流域環境学)
- 土肥 誠 准教授 (複雑系工学)
- 長縄 貴彦 准教授 (土壌園生生態工学)
- 木原 康孝 講師 (農地環境工学)
- 佐藤 邦明 助教 (土壌園生生態工学)
- 佐藤 裕和 助教 (河川工学)
- 佐藤 真理 助教 (地盤材料工学)
- 深田耕太郎 助教 (土壌環境工学)
- 吉岡 秀和 助教 (環境動態学)

附属生物資源教育研究センター

- [森林科学部門]**
- 山下 多聞 准教授 (土壌生態学)
- [農業生産科学部門]**
- 松本 真悟 教授 (土壌学・作物栄養学)
- [海洋生物科学部門]**
- 広橋 教貴 教授 (発生生物学)
- 丸山 好彦 准教授 (海洋生態学)
- 吉田 真明 特任准教授 (進化ゲノム生物学)

島根大学松江キャンパス周辺おすすめスポット



松江城
松江のシンボルで、屋根が千鳥が羽根を広げたように見えることから、「千鳥城」とも呼ばれます。平成27年7月、国宝に指定されました。



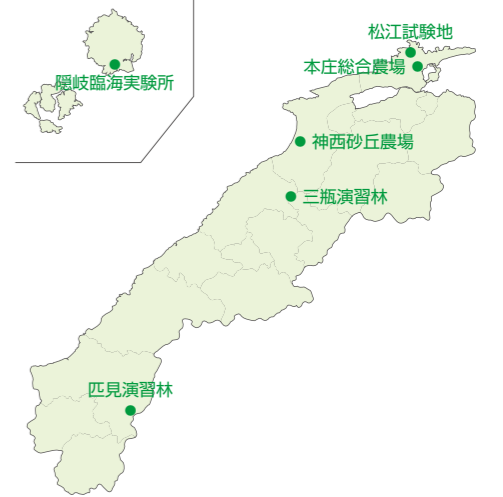
堀川遊覧
松江城を取り囲む堀川を約50分かけてゆっくりと遊覧します。船上から眺める松江の街並みはどこか懐かしく、水辺を彩る草花や水鳥が四季を感じさせてくれます。

水の都・松江にある島根大学松江キャンパスは
JR松江駅よりバスで約20分

松江市略図



附属施設



大学構内図〈松江キャンパス〉

- ① 生物資源科学部1号館
- ② 生物資源科学部2号館
- ③ 生物資源科学部3号館
- ④ 教養講義室棟
- ⑤ 附属図書館
- ⑥ 学生センター
- ⑦ 学生支援センター
キャリアセンター
- ⑧ 保健管理センター
- ⑨ 学生食堂
- ⑩ 学生会館(生協)
- ⑪ 総合情報処理センター
- ⑫ 法文学部
- ⑬ 教育学部
- ⑭ 総合理工学部1号館
- ⑮ 総合理工学部2号館
- ⑯ 総合理工学部3号館
- ⑰ 事務局
- ⑱ 学生市民交流ハウス





宍道湖の夕景

アクセス

※時間はあくまで目安です。

✈ 飛行機

〈JAL〉

東京(羽田)―出雲	約1時間30分
大阪(伊丹)―出雲	約1時間
名古屋(小牧)―出雲	約1時間
福岡―出雲	約1時間10分

※出雲縁結び空港から連絡バス松江行(約30分) JR松江駅下車

〈ANA〉

東京(羽田)―米子	約1時間20分
-----------	---------

※米子鬼太郎空港から連絡バス松江行(約45分) JR松江駅下車

🚆 JR

東京―(新幹線)―岡山―(特急やくも)―松江	約6時間
名古屋―(新幹線)―岡山―(特急やくも)―松江	約4時間30分
大阪―(新幹線)―岡山―(特急やくも)―松江	約3時間30分
福岡―(新幹線)―岡山―(特急やくも)―松江	約4時間30分
岡山―(特急やくも)―松江	約2時間35分

🚌 高速バス

東京―松江	〈JR, 一畑ほか〉(夜行バス) … 約10時間25分
名古屋―松江	〈JR〉(夜行バス) … 約9時間15分
大阪―松江	〈JR, 一畑, 阪急〉 … 約4時間40分
広島―松江	〈一畑, 広電〉 … 約3時間
尾道・福山―松江	〈中国バス〉 … 約4時間10分
福岡―松江	〈JR〉(夜行バス) … 約9時間10分

🚆 JR松江駅より島根大学まで

〈市営バス〉

北循環線内回り 島根大学前下車	約15分
島根大学・川津行 島根大学前下車	約20分

※他に「平成ニュータウン行」「あじさい園地行」「東高校行」などがあります。

〈一畑バス〉

美保関ターミナル行 島根大学前下車	約20分
マリンゲートしまね行 島根大学前下車	約20分

島根大学生物資源科学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL 0852-32-6493 FAX 0852-32-6499

<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>



島根大学 生物資源科学部

